

令和6年3月4日発行（第188号）

こうじえん 耕耳苑

いわてアグリ
ベンチャーネット
にも掲載中！

普及センターだより

宮古農業改良普及センター TEL：0193-64-2220 FAX：0193-64-5631
岩泉普及サブセンター TEL：0194-22-3115 FAX：0194-22-2806
いわてアグリベンチャーネット <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>



年度末の御挨拶

宮古農業改良普及センター 岩泉普及サブセンター 技術主幹兼所長 伊藤 修

農業者の皆様には、昨年末から続く、暖冬・小雪での水不足や春以降の天候不順を心配しながらも、春作業を加速させていることと存じます。改めて、当センターの普及活動にご支援、ご協力を賜りましたことに感謝申し上げます。

さて、昨年は新型コロナ5類移行にともない生活環境は元に戻りつつあるものの、依然として続く生産資材の高騰に加え、春の凍霜や経験したことない夏の酷暑により米・野菜・果樹など多くの作物で収量・品質が低下、畜産でも乳牛の乳量が減るなど気象異常に翻弄される厳しい年となりました。

このような状況の中、普及センターでは、就農相談や就農計画の作成・実践による新規就農者の確保・育成、農家個別巡回や指導会、研修会等による栽培・飼養管理の技術向上、銀河のしずくの施肥実証やブロッコリーの作型品種比較、低コスト環境制御技術実証と電牧を活用した集畜作業省力化実証などによる生産性の向上、パート等向け農作業体験会等による雇用労働力の確保対策などの支援活動を関係機関・団体と連携して実施しました。

今後も、温暖化による高温対策と生産資材高騰への対応、高齢化等による労働力不足の解消が不可欠となることから、普及センターでは、現地での直接的な支援活動を基本に、各種実証・研修会などによる情報発信など関係機関・団体と一体となって課題解決に向け、農家者の皆様と供に取り組んで参りますので、引き続き、ご理解、ご協力をよろしくお願いします。

令和5年度の各農業賞の受賞者が決定！

令和5年度の各農業賞の受賞者が決定しました。受賞された方々には、誠におめでとうございます！

1 いわて農林水産振興協議会会長表彰

(敬称略)

| 受賞区分 | 氏名 | 市町村 |
|-----------------|-------|-----|
| 明日を拓く担い手賞（農業部門） | 中村 匡志 | 岩泉町 |
| 意欲ある担い手賞（農業部門） | 吉濱 孝明 | 宮古市 |

中村様は、学校卒業後、平成26年に酪農を営む両親のもとに就農されました。収益の最大化を図るため、作業の省力・効率化や乳牛の個体能力向上、生産性向上に取り組んでいる他、地域の遊休農地の活用や耕種農家への堆肥供給により耕畜連携を図るなど、中山間地域におけるモデル的な酪農経営を実践しております。また、若手農業者のリーダーの一員として、担い手組織の活動に貢献されております。

吉濱様は、海外研修と宮古市内での研修の後、平成24年に就農されました。いちごを主体とした野菜生産に取り組むとともに、新たに農産物の加工・直売・スイーツ販売を行う店舗を開設し、地域の農業者と連携した宮古地域の農産物の付加価値向上や地域農業の振興、所得向上を目指して取り組んでおります。また、就農希望者の研修や農業体験等を積極的に受け入れ、担い手育成にも尽力されております。

2 宮古地方農業賞

(1) 農業振興部門

(敬称略)

| 区分 | 受賞区分 | 氏名 | 市町村 |
|--------|-------------|------------------------------|-----|
| 農業推進の部 | 明日を担う農業経営者賞 | 久保田 智治 | 宮古市 |
| | 地域を担う農業経営者賞 | <small>あいしゃ</small> 合砂 哲士 | 岩泉町 |

久保田様は、滋賀県で園芸栽培技術を学んだ後、平成29年に地元に戻り就農されました。ブロッコリーとピーマンを基幹品目として年間を通じて収入が得られるよう、計画的な野菜や花きの生産に取り組み、近隣の遊休農地を借り受けながら経営規模の拡大を図るなど、地域農業の中心的な存在として活躍しております。また、農村青年クラブの活動へ積極的に取り組む他、新規就農希望者の研修を積極的に受け入れており、人材育成にも大きく貢献されております。



合砂様は、肉用牛生産を営む両親のもとで育ち、学校で生産技術を学んだ後就農して、令和4年に親から経営を継承されました。以降、経営者として、積極的に研修会や共進会に参加し、同志との交流や見聞を広めながら技術研鑽に努めるとともに、地域の遊休農地を借り受けて維持管理するなど、地域の中核農家として活躍しています。また、農村青年クラブの会長を歴任し、地域の担い手組織活動にも貢献されております。



(2) 園芸部門

(敬称略)

| | 区分 | 市町村 | 氏名 |
|------|--------------|------|--------|
| 最優秀賞 | 野菜部門(きゅうり) | 宮古市 | 上坂 清一 |
| | 野菜部門(ピーマン) | 田野畑村 | 中村 真文 |
| 優秀賞 | 野菜部門(きゅうり) | 宮古市 | 松館 怜 |
| | 野菜部門(ブロッコリー) | 岩泉町 | 竹花 卓也 |
| | 野菜部門(ほうれんそう) | 田野畑村 | 畠山 隆司 |
| | 野菜部門(わさび) | 岩泉町 | 馬川 竹夫 |
| | 野菜部門(いんげん) | 岩泉町 | 佐々木 政憲 |
| | 花き部門(りんどう) | 宮古市 | 中村 一彦 |
| | 花き部門(小菊) | 宮古市 | 内館 勝則 |

(3) 畜産部門

(敬称略)

| | 区分 | 市町村 | 氏名 |
|------|--------------|------|--------|
| 最優秀賞 | 酪農部門(21頭以上) | 岩泉町 | 山崎 敏 |
| | 酪農部門(20頭以下) | 岩泉町 | 守田 栄子 |
| | 和牛繁殖部門(6頭以上) | 岩泉町 | 佐藤 文喜 |
| | 和牛繁殖部門(5頭以下) | 宮古市 | 中村 一豊 |
| | 短角繁殖部門 | 宮古市 | 東館 哲夫 |
| | 褐色繁殖部門 | 宮古市 | 袴田 一郎 |
| | 短角肥育部門 | 岩泉町 | 畠山 利勝 |
| 優秀賞 | 酪農部門(21頭以上) | 岩泉町 | 加藤 政敏 |
| | 酪農部門(20頭以下) | 田野畑村 | 畠山 一敏 |
| | 和牛繁殖部門(6頭以上) | 岩泉町 | 佐々木 一二 |
| | 和牛繁殖部門(5頭以下) | 宮古市 | 柏 慶一 |
| | 短角繁殖部門 | 岩泉町 | 合砂 丈司 |

【担当:鈴木】

新規就農者等向け「土づくり研修会」を開催しました！

1月30日と2月9日に、土づくりに関する知識や管理技術の向上を目的として、管内の新規就農者等を対象とした研修会を開催しました。

研修会では、本県の普及員OBである高橋好範氏に講師を務めていただき、現地で穴掘り調査を行いながら排水対策等を学んだほか、石灰資材の反応速度の実験から資材特性を学ぶなど、実際に体験して知識を深めました。



参加者からは、「肥料やたい肥の現物を見たり、においを嗅いだりして特性を学べたのが良かった」「自分自身の知識不足を感じたので、もっと知識を増やしたい」等の感想が寄せられ、充実した研修になりました。

なお、3月6日には、新規就農者等向け「病虫害防除研修会」の開催も予定している他、令和6年度も引き続き、営農に関する基本技術研修会を開催し、新規就農者等の技術向上を支援する予定です。

【担当:佐々木(花)】

4Hクラブ酪農先進地事例視察研修を実施 ～洋野町の育成牧場と酪農家2戸を視察！～

岩泉町農業農村青年クラブと田野畑村農業農村青年クラブは12月14日に、預託育成施設の飼養管理技術の向上と高品質の生乳生産を目的として、合同で洋野町への先進地事例視察研修を実施しました。研修には4Hクラブの呼びかけで、田野畑村営長峰牧野育成牧場と岩泉うしあわせ女子部も参加し、計7名で行いました。

一般社団法人大野畜産公社洋野牧場では、「育成ステージ別の飼養管理」について、酪農家の間澤牧場では「農場HACCP認証における衛生管理」、田代牧場では「カウコンフォートによる牛舎環境改善と飼養管理」を中心に研修しました。間澤牧場では哺乳ロボットを活用した省力的な哺育牛管理を行っており、哺乳を担当するうしあわせ女子部の山崎会長は活発に意見交換していました。参加者からは「他の育成牧場を視察する機会は貴重なため勉強になった」「飼養管理について学ぶだけでなく視察先や参加者となつながりを持つことができ、大変よかった」との感想が寄せられ、飼養管理技術やモチベーションの向上、人脈づくりにつながる視察研修となりました。



【担当:佐々木(優)】

水稻の土づくりについて

～気象変化に強い稲作の実践に向けて～

令和5年産水稻は、8月の猛暑により一部で高温障害（白未熟粒）の発生により玄米品質が低下しました。ここ数年、宮古地域でも気象変化が激しくなっており、品質や単収を維持するためにはこれに対応した栽培管理が求められます。

気象変化への対応力を高めるには「土づくり」が重要です。しっかりとした土づくりを行うことで、稲が養水分をしっかり吸収できるため、人が汗をかくことで熱中症を防ぐように、稲も気温の変化に対応できるようになります。下記を参考に、自分が取り組めるものから土づくりを意識して行いましょう。

① 堆肥施用（目安は牛糞堆肥の場合 10aあたり1トン程度）

土壌の化学性、物理性を総合的に改善します。土壌からの窒素発現量の増加や根の発達促進など、環境変化への対応力を高めてくれます。

② 作土深の確保

作土が浅いと根が張れる面積が制限され、その分吸収できる養水分も減少します。耕深を深くできる圃場は、「作土 15 cm」を目標に毎年少しずつ深くしていきましょう。

③ ケイ酸資材の施用

ケイ酸が不足すると根の吸水力が低下し、葉からの蒸散量も低下します（人でいう汗をかく作用）。汗をかけず、稲体が高温となると高温障害が発生しやすくなるため、ケイ酸は積極的に補給しましょう！

④ 稲わらすき込み

稲わらのすき込みは秋のできるだけ早い時期に行いましょう。すき込みに併せて、腐熟促進資材を施用すると、わらによる地力の維持・向上効果を高めることができます。また、移植後の「ワキ」の軽減や、メタンガス（温室効果ガス）の排出抑制といった副次的な効果も期待できます。

【担当：小野】

“ 忘れない 山の恵みと 火の始末 ”

山火事防止3原則で、大切な森林を守りましょう

令和5年は、県で28件、宮古管内で4件（宮古市3件、山田町1件）の林野火災が発生し、長い時間をかけて育った森林が失われました。

県では3月1日から5月31日までを「山火事防止運動月間」としており、大切な森林を守るため、山火事防止の注意喚起等を実施しています。

特に重要となる山火事防止3原則は、「①強風、乾燥時は野外で火を使わない」「②森林の近くでたき火、野焼きをしない」「③たばこの吸殻は投げ捨てない」の3つです。

例年3月から5月は野山が乾燥し、風が強い日も多く、林野火災が発生しやすい気象条件です。火の扱いには特に気をつけましょう。

【担当：戸田】



平成29年に釜石市で発生した山火事

（編集後記）

本年度も昨年4月から早1年が経ち、いよいよ年度末となります。この「耕耳苑」では、地域の農業者等のご活躍される姿や普及センターでの取組等をお伝えしてきました。1年間、ご愛読いただきありがとうございました。来年度もわかりやすくタイムリーにお伝えするよう一層頑張りますので、引き続きご愛読いただきますようよろしくお願いいたします。（鈴木）